



科目名	解剖学 I					担当者	濱野 温子		
単位数	4	時間数	80	年次	1	履修期	前期	授業方法	講義
<b>【講義内容・目的】</b>									
解剖学は人体の正常な構造を理解する学問であり、授業を通して各器官の位置関係と仕組みを学習する。中でも骨・筋の身体の支持、他器官との関連、運動や様々な働き等を重点的に理解する。解剖学 I では第 1 章「人体の構成」と第 10 章「運動器系」を学習する。1. 各運動器の名前と位置関係や方向を理解する。 2. 各運動器の機能形態的役割を理解する。									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b>									
定期試験(70%)および中間試験(30%)により評価する。									
<b>【注意事項】</b>									
適宜資料を配布し、資料に沿って講義を行う。									
<b>【講義計画】</b>									
1	1 章基礎	人体の構成	27	10 章骨筋	下肢筋まとめ				
2	1 章基礎	人体の区分・面	28	10 章骨筋	頭部構成骨①泉門・縫合				
3	10 章骨筋	骨概要(種類・連結・部名)	29	10 章骨筋	頭部構成骨②				
4	10 章骨筋	関節①	30	10 章骨筋	頭部構成骨③				
5	10 章骨筋	脊柱①	31	10 章骨筋	頭部構成骨④				
6	10 章骨筋	脊柱②	32	10 章骨筋	頭部⑤頭蓋底・顔面・眼窩				
7	10 章骨筋	脊柱③・胸郭・骨盤	33	10 章骨筋	頭部まとめ				
8	10 章骨筋	下肢骨①	34	10 章骨筋	筋概要・頭部筋				
9	10 章骨筋	下肢骨②	35	10 章骨筋	頸部筋①				
10	10 章骨筋	下肢骨③	36	10 章骨筋	頸部筋②				
11	10 章骨筋	下肢骨④	37	10 章骨筋	頸部筋③				
12	10 章骨筋	下肢骨⑤	38		まとめ				
13	10 章骨筋	下肢骨まとめ			定期試験				
14	10 章骨筋	関節②	39		まとめ				
15		中間試験	40		総復習				
16	10 章骨筋	体幹筋①							
17	10 章骨筋	体幹筋②							
18	10 章骨筋	体幹筋③							
19	10 章骨筋	体幹筋④							
20	10 章骨筋	体幹筋まとめ							
21	10 章骨筋	下肢筋①							
22	10 章骨筋	下肢筋②							
23	10 章骨筋	下肢筋③							
24	10 章骨筋	下肢筋④							
25	10 章骨筋	下肢筋⑤							
26	10 章骨筋	下肢筋⑥足根管など							
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会 編 「解剖学 第 2 版」 医歯薬出版株式会社					参考書			



科目名	解剖学Ⅲ					担当者	上野 哲平 / 上田 直樹		
単位数	4	時間数	80	年次	1	履修期	通期	授業方法	講義
<b>【講義内容・目的】</b> 解剖学は人体の正常な構造を理解する学問であり、授業を通して各器官の位置関係と仕組みを学習する。循環器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系などの臓器について理解する。各臓器の名前と位置関係や方向や機能形態的役割を理解する。第2章循環器系、第5章泌尿器系、第6章生殖器系を上野が担当、第7章内分泌系、第8章神経系を上田が担当する。									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験（100%）により評価する。									
<b>【注意事項】</b>									
<b>【講義計画】</b>									
1	第2章 循環器 1				26	第7章 内分泌器 6			
2	第2章 循環器 2				27	第8章 神経系 1			
3	第2章 循環器 3				28	第8章 神経系 2			
4	第2章 循環器 4				29	第8章 神経系 3			
5	第2章 循環器 5				30	第8章 神経系 4			
6	第2章 循環器 6				31	第8章 神経系 5			
7	第2章 循環器 7				32	第8章 神経系 6			
8	第2章 循環器 8				33	第8章 神経系 7			
9	第2章 循環器 9				34	第8章 神経系 8			
10	第5章 泌尿器 1				35	第8章 神経系 9			
11	第5章 泌尿器 2				36	第8章 神経系 10			
12	第5章 泌尿器 3				37	第9章 感覚器 1			
13	第5章 泌尿器 4				38	第9章 感覚器 2			
14	第5章 泌尿器 5				39	第9章 感覚器 3			
15	第6章 生殖器 1					定期試験			
16	第6章 生殖器 2				40	まとめ			
17	第6章 生殖器 3								
18	第6章 生殖器 4								
19	第6章 生殖器 5								
	定期試験								
20	まとめ								
21	第7章 内分泌器 1								
22	第7章 内分泌器 2								
23	第7章 内分泌器 3								
24	第7章 内分泌器 4								
25	第7章 内分泌器 5								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会 編 「解剖学」第2版 医歯薬出版株式会社					参考書			

科目名	生理学 I					担当者	楠本 真也		
単位数	4	時間数	80	年次	1	履修期	通期	授業方法	講義
<b>【講義内容・目的】</b> 鍼灸師に必要な人体諸器官の正常な機能を解剖学の知識と相互的に関連付け、理解する。 教科書第1章～第10章を学習する。									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験(100%)で評価する。									
<b>【注意事項】</b> 配布資料を基に講義を行う。									
<b>【講義計画】</b>									
1	オリエンテーション					26	生殖・成長・老化①		
2	消化・吸収①					27	生殖・成長・老化②		
3	消化・吸収②					28	神経①		
4	消化・吸収③					29	神経②		
5	代謝①					30	神経③		
6	代謝②					31	神経④		
7	代謝③					32	神経⑤		
8	循環①					33	神経⑥		
9	循環②					34	神経⑦		
10	循環③					35	神経⑧		
11	循環④					36	神経⑨		
12	循環⑤					37	神経⑩		
13	循環⑥					38	神経⑪		
14	循環⑦					39	神経⑫		
15	呼吸①						定期試験		
16	呼吸②					40	まとめ		
17	呼吸③								
18	体温①								
19	体温②								
	定期試験								
20	排泄①								
21	排泄②								
22	内分泌①								
23	内分泌②								
24	内分泌③								
25	内分泌④								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会 編 「生理学 第3版」 医歯出版株式会社					参考書			





科目名	東洋医学概論 I					担当者	江郷 順子		
単位数	3	時間数	60	年次	1	履修期	後期	授業方法	講義
<b>【講義内容・目的】</b>									
東洋医学の基礎概念を学習し理解する。 本講では東洋医学の中でも中心となる「陰陽」「五行」「気血」「臓腑」についてを学んでいく。									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b>									
定期試験(70%)および小テスト及び中間試験(30%)により評価する。									
<b>【注意事項】</b>									
<b>【講義計画】</b>									
1	導入・東洋医学の概要					27	経絡		
2	東洋医学の歴史 東洋医学の現状					28	病因病機		
3	陰陽学説					29	まとめ回		
4	五行学説						定期試験		
5	東洋医学における五行の運用					30	まとめ回		
6	精の生理・病理								
7	気の生理・分類								
8	気の病理								
9	前期中間前復習								
10	まとめ回								
11	血の生理・血の病理								
12	津液の生理・津液の病理								
13	生理物質の相互関係								
14	神と人体の陰陽								
15	臓腑の概要								
16	肝、胆の生理								
17	心、小腸の生理								
18	脾、胃の生理								
19	肺、大腸の生理								
20	腎、膀胱の生理								
21	五臓の相互関係と病理								
22	五臓の相互関係と病理								
23	五臓の相互関係と病理								
24	五臓の相互関係と病理								
25	三焦と六腑の相互関係								
26	全身の気機								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学概論」 医道の日本社					参考書			

科目名	経絡経穴概論					担当者	山形 泰斗		
単位数	5	時間数	100	年次	1	履修期	通期	授業方法	講義
<b>【講義内容・目的】</b>									
経穴の名称、解剖学知識を用いた部位を理解する。また、臨床で経穴を用いることを想定し、実際に取穴することができることを目的とする。									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b>									
取穴の実技試験（10％）と中間試験（20％）、定期試験（70％）で評価する。									
<b>【注意事項】</b>									
<b>【講義計画】</b>									
1	経穴の取り方に必要な用語					26	手の少陽三焦経①		
2	督脈①					27	手の少陽三焦経②		
3	督脈②					28	足の少陽胆経①		
4	督脈③					29	足の少陽胆経②		
5	任脈①					30	足の少陽胆経③		
6	任脈②					31	足の厥陰肝経		
7	手の太陰肺経					32	奇経八脈		
8	手の陽明大腸経①					33	奇穴①		
9	手の陽明大腸経②					34	奇穴②		
10	足の陽明胃経①					35	要穴①		
11	足の陽明胃経②					36	要穴②		
12	足の陽明胃経③					37	要穴③		
13	足の太陰脾経①					38	要穴④		
14	足の太陰脾経②					39	要穴⑤		
15	手の少陰心経					40	要穴⑥		
16	手の太陽小腸経①					41	経穴と解剖学の関連①		
17	手の太陽小腸経②					42	経穴と解剖学の関連②		
18	復習①					43	経穴と解剖学の関連③		
19	復習②					44	経穴と解剖学の関連④		
	定期試験					45	経穴と解剖学の関連⑤		
20	足の太陽膀胱経①					46	経穴と解剖学の関連⑥		
21	足の太陽膀胱経②					47	経穴と解剖学の関連⑦		
22	足の太陽膀胱経③					48	経穴と解剖学の関連⑧		
23	足の少陰腎経①						定期試験		
24	足の少陰腎経②					49	経穴と解剖学の関連⑨		
25	手の厥陰心包経					50	まとめ		
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 経絡経穴概論」医道の日本社					参考書			

科目名	鍼灸入門実習				担当者	山口 大輔			
単位数	2	時間数	80	年次	1	履修期	前期	授業方法	実習
<b>【講義内容・目的】</b>									
<p>鍼術（はりじゅつ）とは一定の方式に従い、鍼をツボなどに接触または刺入し、生体に一定の機械刺激を与え、また、灸術（きゅうじゅつ）とは一定の方式に従い、艾（もぐさ）を燃焼させ、またはこれに代わる材料や専用機器を用いて、ツボなどに温熱刺激を与え、それによって自然治癒力を高め、体調不良を改善し、病気にならない体づくり（疾病予防）や治療に広く応用するものである。</p> <p>この授業では、鍼灸術の概念や理論を学ぶと同時に、実際に臨床で使用する鍼や艾炷（がいしゅ）作成および安全に刺鍼施灸できる技術を繰り返し練習しながら身につける。また、鍼灸施術時のリスクを理解し、その予防および発生時の対処法などを学ぶ。</p> <p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刺鍼や施灸に関するリスクを知り、その予防および対処ができる。</li> <li>・刺鍼においては、指示された部位へ指定された術式、刺鍼深度で適正にかつ安全に刺鍼できる。</li> <li>・施灸においては、指定された大きさの艾炷を、指定時間内に指定個数作成でき、スムーズに点火できる。</li> <li>・一定の燃焼温度になるよう艾炷を捻ることができ。</li> </ul>									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b>									
定期試験(70%)および確認テスト(30%)により評価する。									
<b>【注意事項】</b>									
<b>【講義計画】</b>									
1	【はり】 鍼の基礎知識・道具の確認	27	【はり】 自己刺入（基礎②）						
2	【きゅう】 灸術の定義、艾炷の作り方	28	【きゅう】 板上での点火練習②						
3	【はり】 刺鍼の方式と術式①	29	【はり】 自己刺入（基礎③）						
4	【きゅう】 艾について	30	【きゅう】 板上での点火練習③						
5	【はり】 刺鍼の方式と術式②	31	【はり】 自己刺入（基礎④）						
6	【きゅう】 艾の種類、線香について、艾炷①	32	【きゅう】 紙上での点火練習①						
7	【はり】 特殊鍼法①	33	【はり】 自己刺入（基礎⑤）						
8	【きゅう】 灸の種類 有痕灸と無痕灸、艾炷②	34	【きゅう】 紙上での点火練習②						
9	【はり】 特殊鍼法②	35	【はり】 自己刺入（基礎⑥）						
10	【きゅう】 灸の刺激量、艾の燃焼温度	36	【きゅう】 紙上での点火練習③						
11	【はり】 鍼灸の臨床応用①	37	【はり】 自己刺入（基礎⑦）						
12	【きゅう】 感受性について、艾炷③	38	【はり】 はり操作確認						
13	【はり】 鍼灸の臨床応用②		定期試験						
14	【きゅう】 鍼灸療法の適応症と禁忌	39	【きゅう】 きゅう操作確認						
15	【はり】 リスク管理	40	人体への施術の注意点、施術の流れ						
16	【きゅう】 灸療法の過誤と副作用								
17	【はり】 ガイドライン説明								
18	【きゅう】 艾炷への点火の仕方								
19	【はり】 衛生操作①								
20	【きゅう】 艾炷への点火練習①								
21	【はり】 衛生操作②								
22	【きゅう】 艾炷への点火練習①								
23	【はり】 衛生操作③								
24	【きゅう】 艾炷への点火練習②								
25	【はり】 自己刺入（基礎①）								
26	【きゅう】 板上での点火練習①								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「はりきゅう理論 第3版」 医道の日本社 公益社団法人 東洋療法学校協会編 「はりきゅう実技〈基礎編〉」 医道の日本社				参考書	鍼灸安全対策ガイドライン 2025年版（改訂第2版） 坂本歩 監修／全日本鍼灸学会臨床情報部安全性委員会 編			

科目名	鍼基礎実習					担当者	江郷 順子		
単位数	2	時間数	80	年次	1	履修期	後期	授業方法	実習
<b>【講義内容・目的】</b>									
鍼の基礎技術と知識を習得し、技術を安全かつ確実に行える基本的な能力を身につけることを目標とする。									
<b>【実務経験】</b>									
<b>【成績評価方法】</b>									
定期試験(70%)と平常点(30%)で評価する。									
<b>【注意事項】</b>									
平常点には、実技室ルール、片付けなどが含まれる。									
<b>【講義計画】</b>									
1	オリエンテーション 授業の流れを確認する。					26	頸部への刺鍼		
2	挿管法、刺鍼練習					27	頸部への刺鍼		
3	管鍼法、捻鍼法					28	頭部への刺鍼		
4	捻鍼法、刺鍼転向・横刺					29	頭部への刺鍼		
5	下腿への刺鍼					30	頭部への刺鍼		
6	下腿への刺鍼					31	顔面部への刺鍼		
7	下腿への刺鍼					32	顔面部への刺鍼		
8	下腿への刺鍼					33	特殊鍼法		
9	大腿への刺鍼					34	特殊鍼法		
10	大腿への刺鍼					35	特殊鍼法		
11	上腕部への刺鍼					36	特殊鍼法		
12	上腕部への刺鍼					37	特殊鍼法		
13	前腕部への刺鍼					38	対人刺鍼		
14	前腕部への刺鍼						定期試験		
15	腰殿部への刺鍼					39	試験のフィードバック		
16	腰殿部への刺鍼					40	まとめ		
17	腰殿部への刺鍼								
18	腰殿部への刺鍼								
19	腰背部への刺鍼								
20	腰背部への刺鍼								
21	腰背部への刺鍼								
22	腰背部への刺鍼								
23	腰背部への刺鍼								
24	腰背部への刺鍼								
25	膝関節周囲の刺鍼								
26	膝関節周囲の刺鍼								
教科書						参考書	公益社団法人東洋療法学校協会 編 「新版 経絡経穴概論」 医道の日本社		





